

統一地方選後半の豊橋市議選が始まった。26日の投票日に向かって、短期決戦だけに勢いが全て。その勢いは地方創生の時代を拓(ひら)くこととする候補者の懸命さであってほしい。36のイスをめぐる42人が激しく争う戦国時代そのものの豊橋市議選の状況を展望する。(文中敬称略、○囲み数字は当選回数、地域名は住所校区)

地方創生の時代を拓け

豊橋市議選の展望

豊橋市議選の定数は36。引退するのは岡本泰(まちフォーラム、牛川⑤)、牧野英敏(有志会、高師④)、渡辺則子(市民会議、栄⑤)の3人。

田一雄(多米②)、三代続く近田明久(玉川④)、ベテラン鈴木道夫(栄⑤)、前議長長藤原孝夫(若西⑤)、若手の伸び盛り近藤喜典(若田①)、将来が楽しみみの山本賢太郎(幸①)、政策力を磨く中村竜彦(菅原②)、毎回一般質問に登壇する伊藤篤哉(松葉②)の13人は楽観論を排し、緊張感を保持できるかどうか。

①、次期議長の声がかかる佐藤多一(松葉④)、農業政策の第一人者向坂秀之(福岡①)、ベテラン田中敏一(二川南④)、気さくな市原享吾(鷹丘①)の7人は前回3000票以上の実

で混戦から安全圏へ抜くよと懸命。堅固な組織に支えられ、11回連続全員当選の公明党の宮澤当知子(新川④)、鈴木義則(高師④)、鈴木博(牟呂③)、沢田都史子(野依③)、尾見②)、星野隆輝(玉川①)の4人は懸命に票を積み上げて議席守の構え。

一期12人「二期の壁」突破なるか

候補予定者42人のうち現職は33人。

自民系の候補者では、前回3600票以上獲得した若手のホープ尾崎雅輝(二川①)、校区あげての古関充宏(牟呂③)、

これに続くのが力をつけてきた前田浩伸(野依②)、現場力抜群の堀田伸一(吉田方②)、粘り強い活動の山田静雄(幸隣)の旭校区の広がり

も支持拡大に必死。地元をまとめることのできるかどうか。

前回最下位の小原昌子(東田①)は地道な活動と、地元東田、野③)、廣田勉(富士

寺本泰之(賀茂②)は「一人は欲しいオンブスマン」の三度目に懸命。

「街づくりは人づくり」を訴える福井靖(新川)の3人は立ち上がり早く、体制が整いつつある。

将来の有望株の杉浦正和(細谷②)、元氣いっぱい松崎正尚(下地①)、前議長長の坂柳泰光(磯辺③)、政策力抜群の豊

連続愛知の支援を受ける深山周三(牟呂③)、芳賀裕宗(中山本太郎となかまたち)の推薦も受け、

共産の2人を含め新人は8人。元職、新人で4人以上が当選するには、現職を

はじき出さなければならぬ。12人の新人が当選した前回とは違つて新人にも厳しい選挙。

「地域から行政の橋渡し」の近藤修司(吉田方)、「次代の架け橋を作る」が信条の二村真一(松山)、

「日本を元気にする会」の推薦も得た最年少31歳の長坂尚登(中野)は内閣官房地域活性化伝道師。広小路を拠点に初勝利へ歯車が回り切るかどうか。東大卒の真価が問われる。

「二期目の壁」を突破できるか、どこかも注目される。

一期の現職12人は

いずれにしても市議選は地元、親戚、同級生を核に一票一票を積み重ねる戦い。

忍耐力強く、最後まで丁寧にこの作業を総力戦で繰り返した候補者が、勝つ。これが鉄則。

(地方政治クリエイト・伊藤秀昭)

二期目の壁を突破

二期目の壁を突破

二期目の壁を突破